

『越後戊辰戦争と加茂軍議』

歴史講演会 最終章

三重県桑名市(於:くわなメディアライヴ)

～当日の様子が中日新聞(4/3 付け)に掲載されました～

当商工会議所では、平成28年9月に書籍『越後戊辰戦争と加茂軍議』を発行し、同月に開催した出版記念講演会を皮切りに本の解説講座を5回シリーズで開催した他、戊辰戦争ゆかりの地で各地域に沿ったテーマで本の著者である稲川明雄先生(河井継之助記念館 館長/長岡市)より分かりやすく解説していただきました。

3月25日(日)には加茂と所縁のある三重県桑名市で開催し、桑名市をはじめ、三重県四日市市、明和町や愛知県名古屋市、そして新潟県加茂市からと約250名が参加し、熱心に聴き入る大勢の歴史愛好家の姿が見られました。

「日本の転換点」加茂軍議を解説
桑名で歴史家
幕末に桑名藩が治めていた加茂(現在の新潟県加茂市)で戊辰戦争(一八六八年)中に開かれた「加茂軍議」を解説する講演会が、桑名市中央町のくわなメディアライヴであった。新潟県長岡市の歴史家稲川明雄さん(七三)



「加茂軍議」について解説する稲川さん=3月25日、桑名市で

が講師を務め、二百五十人が聴講した。加茂商工会議所主催、桑名商工会議所後援。「加茂軍議」は、長岡藩をはじめ新潟と東北の幕府側の藩が新政

府軍の越後進攻で劣勢になった際、各藩の指導者が加茂で開いた会議。抗戦の継続を決定し、一度落とされた長岡城の奪還につながった。幕府側だった桑名藩はすでに開城していたが、一部藩士は転戦し続けていて、軍議にも参加したという。稲川さんは講演後、「加茂軍議により新政府軍は大きな被害を受け、『戦争に勝つには犠牲が必要』という認識を固めた。太平洋戦争にもつながらる考えで、加茂軍議は日本にとって大きな転換点だった」と意義を語った。(西川拓)